

平成 28 年度 事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

NPO 法人みやっこベース

1 事業の成果

地域で主体的に行動する人材育成を目的に、宮古市内の高校生を対象に「高校生サミット」を開催し、高校生が地域において活動するための機会づくりを行った。「僕らの夏祭りプロジェクト」との意見交換から始まった「夏祭りでの宮古の特産を使ったフィッシュバーガー出店」など、高校生による 6 つのプロジェクトをサポートした。

市内中心部で運営するフリースペース「みやっこハウス」を拠点に、宮古市内外の高校生や大学生が集まる交流会を開催し、活動的な若者が集う活発な場作りに努めた。また、震災以後継続的に宮古市を訪れている中央大学、旭川大学のボランティア団体と岩手県立大学、宮古短期大学部の学生交流会を開催し、現在の課題などを共有する機会をつくり、今後の活動促進を図った。

8 月末に発生した台風 10 号による災害の際、地元愛を持ち主体的に地域で活動する高校生がいたことにより、発災翌日から 40 人を超える高校生が復旧に向けたボランティアとして集まるなど、高校生の力を最大限生かすことができた。また、のべ約 300 人の高校生、大学生がボランティアセンターを通して活動するなど、これまでの若者の活動やつながりが有事の際に活かした事例となった。

進学のため宮古市外へ転出する高校生や既に転出している宮古出身の大学生を対象に、地元への U ターン意向を高めるため、「地元修学旅行」を初開催した。地元で働く人や職業・産業に触れ、自然のアクティビティを体験するプログラムとして実施し、参加者のべ 22 人全員の満足を得て、地元の魅力の再認識につながった。

宮古市の小学 4 年生～6 年生を対象にしたこどものまち「みやっこタウン」を、陸中宮古青年会議所との協働で実行委員会を組織し初開催した。仕事や街の仕組みを理解し社会への参画意識を養うこと、また宮古地域の多様な職業に触れることで、郷土愛を深めると共に職業選択の幅を広げることを目的として行い、82 人の小学生が参加。95%の参加者が「また参加したい」と答えるなど、継続開催が期待される事業となった。

事業範囲が広がる一方で、8 月末の台風被害によりボランティアとして法人運営に携わる人員が不足した。これまでの組織体制を見直し、持続的に事業を推進できるよう人的・資金的の両面から組織基盤強化を図る必要がある。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
青少年育成支援事業	地域に関わる機会創出 「高校生サミット」開催	4/10,5/3, 8/13,10/16, 11/20,	みやっこ ハウス	4名	宮古の高校生のべ60人	974.9
	高校生の活動支援 活動コーディネート	通年	みやっこハ ウス	7名	宮古の高校生 による6プロジ ェクト他	1,016.2
	市内・市外の高校生・大 学生の交流促進	5/3,7/2, 8/13,10/29, 12/28など	みやっこハ ウス、大槌 町など	6名	宮古及び宮古 市外の高校生のべ111人	962.4
	キャリア形成支援 「地元修学旅行」	11/23 3/9-10	宮古市内	4名	宮古の高校生 及び宮古出身 の大学生22人	479.9
	こどものまち 「みやっこタウン」	8/21	宮古市内	7名	宮古の小学生 82人	40
社会環境整備事業	若者向けフリースペー ス「みやっこハウス」運 営	通年	宮古市内	10名	のべ1,063人	1,307.7
	広報啓発「みやっこニュ ース」編集発行	10月、3月	宮古市内	4名	サポーター、宮 古市民向け	616
その他の事業	組織基盤強化	通年	宮古市内	8名	理事会、事務局	142.7
	他団体との連絡調整	適宜	宮古市内、 南三陸町、 仙台市など	3名	宮古市内およ び東北三県の 関係団体	178.7